

【登壇者のご紹介】

◆ A 会場

A-01●宮下 青生（高校アカデミック、5 期）東京都立三鷹中等教育学校（イギリス）



英語の発祥地であるべき英語教育の姿を学ぶ

将来は英語教師になりたいと、夏休みに3週間、英国オックスフォードの語学学校に留学して英語の授業のあるべき姿を学んだ。ある時、ホストマザーに「日本人は英語を言語ではなく、教科として学んでいるね」と言われ衝撃を受けた。英語が上手くなる一番の道は生徒が能動的になることだと痛感。語学を学ぶ姿勢を根本的に変える必要性を感じて帰国した。

A-02●曾我 菜々美（高校アカデミック、5 期）清泉女学院高校（ニュージーランド）

幸福度の差って？ ～ニュージーランドと違う捉え方

国連発表の「世界幸福度ランキング」。それと同じ内容のアンケートを日本と留学先のニュージーランドで実施した。そこから分かった日本の幸福度ランキングを向上させるヒントとは？ 調査をお願いした「私」のバックグラウンドを全く知らない、文化や言葉の異なる現地の方々に「この人に協力してあげよう！」と思わせ惹きつける大変さを経験しながらも、大きな達成感を得ることができた。



A-03●前田 琴里（高校アカデミック、5 期）大阪教育大学附属高校天王寺校舎（オーストラリア）



コアラの指紋を観察しながらプレゼン技術を身につける

将来の夢は研究者になること。そのために必要な「研究力」「プレゼン力」を伸ばそうとオーストラリアでコアラの指紋を研究した。プレゼン教育が盛んなオーストラリアは発表者も聴衆も日本とは異なる雰囲気、実際に現地で見ると新たな発見があった。最終日のプレゼンでは、直前に思わぬトラブルが多発したが、自ら行動することと、周りの人々のサポートのお陰で乗り切り、評価してもらうことができた。

A-04●西浦 碧（高校アカデミック、4 期）高田高校（フィリピン）

チャンスの神様の前髪をつかむ～世界で活躍する外科医になるために

チャンスの神様には前髪しかない。だからこそ、その前髪をしっかりとかまなければ、チャンスは走り去ってしまう。将来、世界で活躍する外科医になるためにフィリピンのセブ医科大学附属の語学学校で3週間、一般英語と医療英語を学んだ。私自身を変えてくれたのは出会った人達の存在で、それがチャンスでもあった。その出会いが自分の視野を、道を広げた。



A-05●林 風吹（高校アカデミック、3 期）早稲田佐賀高校（スイス）



KNOW NOH ～能楽を広めたい！ 幸福度と伝統芸能～

能楽は、足利義満、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康など多くの武士、貴族に愛されてきた伝統芸能である。楽器によっては当時から使い続けられているものもあり、楽器を通してタイムスリップしているような感覚に陥る。動きや舞台装置は無駄なものが極限まで削がれ、観客に想像をゆだねている。ストーリーも美しい。昔の言葉遣い故に難しく見えるが現代語訳…。

A-06●當銘 花奈子（高校アカデミック、5 期）武田高校（インドネシア）

「宗教×食」。私を変えた1カ月間

宗教と食。全く関係がないように見える2つの文化。しかし、本当は深いつながりがあるのです。今まで宗教に触れてこなかった私が、イスラム教徒の数が世界一多いインドネシアで宗教に触れた1カ月間。宗教や異文化に対する考え方から自分の将来像まで、全てを変えた私の留学経験をお話しします。



A-07●杉浦 由佳（理系、9 期）東京大学大学院農学生命科学研究科（アメリカ）



チャレンジしまくる留学～サステナブルな社会を目指して

初めて一人で住む海外。わからないことだらけの世界です。それでも限られた時間で最大限のものを得るためには、「チャレンジし続けること」が大きなカギだと思っています。大きなチャレンジなのかどうかは問題ではありません。一歩踏み出す勇気を持てるかどうかにかかっているのです。私は留学先では、野生動物学を中心に、サステナビリティについて学んできました。その中での私の様々なチャレンジを正直にお話しします！

A-08●佐々木 亮太（理系・複合・融合系、9 期）東北大学（スウェーデン、フランス）

体に優しい診断・治療機器の開発研究者を目指して

これまで訪れたことのなかったヨーロッパの研究の様子について学ぼうと、スウェーデンとフランスに留学した。スウェーデンでは大学の研究室でフィールドワークを行い、現地の人々の研究に対する考え方やスタイルについて学んだ。また、フランスでは研究インターンシップを通じて最先端の医工学研究に触れることができた。今回は、この留学を経て学んだことと自分の価値観の変化について発表したい。



A-09●若杉 美穂（世界トップレベル、9 期）名古屋大学（イギリス）

普通の 21 歳大学生がイギリスで演劇して 57 カ国を巡る話

1 年前、私はちょっぴり怖がりな普通の大学生。そんな私が昨年、演劇経験ゼロにしてイギリス最高峰の演劇学科に留学し、唯一の留学生ながら舞台に立った。そして 1 人でヨーロッパ全カ国を旅しながら、教科書からでは決して分からなかった光景をこの目に焼きつけた。まさに自分が変わっていった 1 年。なぜ私にこんなことができたのだろう。全てはきっとそう、胸に手を当てて“今の私”と向き合ったことから始まった。



A-10●富山 ひなの（地域人材、9 期）宮崎大学（ウガンダ）



e-Learning で世界最貧国ウガンダの教育格差を是正する

皆さんは世界の教育格差をどう解決すべきだと思いますか？高校生の時から教育格差に興味があった私は、「e-Learning が教育格差と貧困を是正する有効な手段である」という仮説を立て、世界最貧国ウガンダで検証しました。ストリートチルドレンが通う小学校で先生をしながら、ICT の市場調査を行い、実際に自分で作成した e-Learning 授業を生徒に見てもらって有用性を検証しました。

今日はその結果について実体験を交えながら、お話しさせていただきます。

A-11●松本 啓（理系・複合・融合系、7 期）佐賀大学（オランダ、パラオ）

経済合理性の下で衰退していく田舎で事業を起こす

田舎で「仕事」を創れる人になりたいと 1 年間、最先端の農業技術を持つオランダの企業でインターン。高い生産性を誇る農業を学ぶと同時に、ライターとして同国各地の様々な農場取材した。活動を通じて「農業」の定義が変化し、留学途中で農業が発展していない国に行きたいと考えパラオへ。産業がない田舎で事業を作っていくための考え方や様々な業界を相乗効果で生かすことを学んだ。



◆ B 会場

B-01●田中 佑菜（高校プロフェッショナル、5 期）湘南白百合学園高校（アメリカ）

AI×医療の未来～最先端の知識・技術が集う環境で学ぶ

2019 年夏、米スタンフォード大学で2週間の「STEM キャンプ」に参加した。実際にコンピューターでデータ解析をし、グラフで可視化するなどで機械学習の仕組みと構造を理解できた。IT を学んだ同世代と交流しながらシリコンバレーの企業も見学。英語力に加えて第2外国語の必要性や自分の技術力の未熟さを痛感し、将来に向けて具体的な目標が増えた。



B-02●樋澤 秀悟（高校プロフェッショナル、5 期）本庄東高校（アメリカ）

IT 最前線の米シリコンバレーで、より鮮明な目標を発見

「世界一のクリエイターになる」と決め、今年7～9月の8週間、米カリフォルニア州に IT 留学をした。普段の生活では得られない体験、そして世界の IT 業界をリードする様々な企業の方や仲間と出会い、漠然としていた自身の目標が「世界の社会問題を、映像技術を用いて解決するクリエイターになる」との明確な目標に向かって活動しようと決意できた。



B-03●成田 紗花（高校国際ボランティア、5 期）神戸市立葺合高校（タンザニア）

子供たちの笑顔のために

私は約2週間アフリカのタンザニアへ行き、マサイ族村落の小学校で子供たちに英語や算数を教える、教育ボランティア活動をしました。子供たちは皆、タンザニアの将来を背負う未来。そんな未来を育て、学習環境を整える手伝いをし、楽しく学んでもらえる授業をしました。日本にいてだけではわからない現地の状況を知り、その支援の必要性を感じ、高校生の私が、今できる支援を考え実行していきたいと思いました。



B-04●角田 七奈（高校プロフェッショナル、5 期）名古屋市立名東高校（オランダ）

助産師先進国オランダでのインターンシップ

なぜオランダは助産師先進国なのか。その理由を探るべく、日本の産婦人科で職場体験した知識を活かして現地の病院や助産院でインターンシップをした。大学病院と助産院の違いや、日本との違いは何か。妊婦さんや母親、助産師へのインタビュー、自宅出産の立ち会いなどからオランダの助産システムがどう人々の幸せを導くのか見つけた。



B-05●稲吉 光里（高校国際ボランティア、5 期）久留米高校（フィリピン）

発展途上国の赤ちゃんを未来へつなぐ助産師になる

2019 年の夏に 3 週間、フィリピンのセブ島で主に孤児院や、貧困地域の子供達との交流から発展途上国の現状や貧困の実態を実際に自分の目で見て学んできた。今回の留学で、自分の今を見つめ直し、未来を深く、そして広く考えることができた。たった 21 日間の留学だったが、物事を見る自分の目を新しく、クリアなものにできたように思う。



B-06●森川 華子（多様性、8 期）東京音楽大学（アメリカ）

NY でミュージカル俳優に！ 留学で夢を叶える方法

世界中から才能あふれる人が集まる米ニューヨークで「どうしても舞台に立ちたい！」という大きな夢だけを持って上陸。英語も喋れない、プロの俳優でもない、大きな実績もなくクラスで常に底辺だった私が、多くの失敗と悔しい経験を経て今年の夏に現地で念願のミュージカル俳優デビュー！その背景には「留学生」だけが持つ 3 つの力があつた。



B-07●法城寺 光恵（多様性、9 期）創価大学（ベトナム）

涙の数だけ強くなれるよ——“外国人”として挑んだアート展

「ベトナムの障害児専門の託児所でアート展を開く」という企画を立て、日本を発った。しかし、大きな壁が立ちはだかる。「アート展をやりたい」と片言のベトナム語で施設の職員に伝えたが、返ってきたのは愛想笑いと冷たい視線だった。企画や自身の甘さと向き合う苦しい日々が続いたが、最終的には施設長を説得し、念願のアート展を開くことができた。自身の弱さから逃げず向き合う事が、自己の成長につながることを学んだ。



B-08●森下 仁道（新興国、9 期）筑波大学（ザンビアほか）

「森下仁道物語 ～アフリカ編～」

幼いころからの夢だったプロサッカー選手としてのキャリアをスタートさせたアフリカザンビア共和国。指導者としても、のべ 1000 人以上の子どもたちとサッカーを通して交流するほか、個人トレーナーとして起業し アフリカスポーツの可能性を模索してきた。これからもサッカー選手をしてあり続け、次なる目標に向かって発展途上にある「森下仁道」を、期待をもって応援していただきたい。



B-09●佐藤 文治（地域人材、9 期）奈良学園大学（オーストラリア）

環境保護を通して見つけた私の夢

環境保護を持続的に続けるためには、人員とそれらを動かす資金が必要。そのノウハウを学ぶためにオーストラリアへ留学した私は、環境保護だけでなく、自分と向き合う時間を得ることができた。



B-10●北川 美乃里（多様性、9 期）神戸市立葺合高校・関西学院大学（アメリカ、フィリピン）



5 年がかりの美容留学

高校生の時にヘアメイクを学ぶためにハリウッドにトビタった私が、今度は「エシカルコスメを日本に」というテーマで、オランダでは持続可能なビジネスを学び、フィリピンではインターンを経験しました。留学中はお化粧品を通して女性の自尊心向上につながるイベントや、手作りオーガニックコスメのワークショップを開催し、美容を通じた社会貢献を実践しました。

B-11●尾潟 千咲（多様性、9 期）広島大学（フィンランド）

教育大国フィンランドで生涯音楽学習支援を学ぶ！

“Well-being”を目指す、教育大国フィンランド。この国の音楽教育から「日本ですべての人に『一生モノの音楽』に出会えるチャンスをお届ける」ためのヒントを得ようと、1 年間、ユヴァスキュラ大学への交換留学と幼児音楽教室や音楽イベントでの調査活動を行いました。フィンランドの人々の生活、文化、音楽、学び方・教え方、そして価値観を肌で知り、これから「私」が「日本」でどのような「音楽学習」支援ができるのか、追究していきます。

